



グリーン交悠録



TPP、FTP— 外交の臨場感を伝えたい。

元通商産業審議官／元ジェトロ（日本貿易振興機構）理事長 島山 襄 氏
国際貿易投資研究所理事長
本誌主幹 大中 吉一



官僚の質の低下が目に見える

大中 長らく通商産業省（現・経済産業省）に在籍されて、通商交渉の最前線で敏腕を振るっておられました。現在の後輩官僚についてはどのような感想をお持ちですか。

島山 昨今の不祥事を見るにつけ、質の低下は恥ずかしい限りですが、質が悪くなったというよりも、もともとロクな人材がいなかったというのが本当のところですね。

大中 なかなか手厳しいですね。でも優秀な人材もいたと思いますが。

島山 ええ、もちろん中には気骨のある、素晴らしい方もありますが、基本的には面白くない輩だらけです。

大中 どうしてなのでしょうね。

島山 大学を出て社会に出る際に、いちばんが日本銀行、次に大蔵省（現・財務省）、そして通商産業省（現・経済産業省）、さらに文部省（現・文部科学省）という図式が出来上がってしまったので、どうしても3番目以降は行き場のない人材という部分はあるのですね。それでも「ここで日本のため

に働きたい」という意識で自ら選んで入省する人材も居ます。そうした方たちは立派な仕事をしてくれていると思います。

大中 ご子息も、父親の跡を継いで経産省で活躍されています。

島山 ロンドンにいた頃でしたが、妻から息子が経産省に行きたいと言っていると連絡が参りました。

大中 賛成された。

島山 まあ本人が決めたことですから。

大中 先日お会いしましたが、なかなか気骨のある良い官僚になられたと感じました。

島山 気骨と言えば、通産省にも侍が居ました。かつて私が担当局長時代に西の主要国首脳会議（G7）とともに東のG7を作ろうという話になったのです。

大中 東というと、ロシア、ポーランドやルーマニアなどですね。

島山 ええ、それを外務省が大反対したのですが、板挟みになった当時の担当課長の北村君が「やりましょう」と突っぱねてくれたのです。

大中 それはなかなか気骨があります。

島山 彼がいなかったら実現しなかったでしょうね。

昨今は

麻雀を楽しんでいます

大中 ご趣味はおありですか。

島山 酒も煙草も嗜みません。昔はゴルフもやりましたが、最近はなかなかコースにも出ません。

大中 お体を悪くされたと伺いましたが。

島山 パーキンソン病です。それまでは「百獣（110）の王の会」「米（みずほ）会」、さらに「大平会」など様々なコンペに参加させていただきましたが、いまはもっぱら麻雀ですね。

大中 大平会は一時期ですが倫理規定の問題で休会していましたが、先輩後輩の交流の場としての懇親会と言うことで再開しました。

島山 そうでしたか。

大中 とところが懇親会のはずが先輩後輩は別の組でラウンドする。交流会は会場である箱根仙石原のゴルフ場を離れて東京に帰ってからということ、せつかくラウンドしたのにその余韻も冷めてしまうよ



うな状況です。

鳥山 それは寂しい限りですね。

大中 麻雀はいかがですか。

鳥山 基本的には家庭麻雀です。

最近麻雀もありませんからね。

大中 たしかにそうですね。自分で

積めば、ある程度はどこにどの牌が

あるか覚えていられますが、昨今は

全自動とやらで、勝手に牌を積ん

でしまいますから、記憶するという

技術も使えませんね。

著書「経済統合の新世紀」

大中 数年前に本を出版されましたね。

鳥山 集大成というわけでもない

のですが、世界経済は20世紀最後

の10年に入ったあたりから冷戦の

終了とともに地球化(グローバル

ゼーション)が進行しました。共産

主義経済が崩壊し、交通通信技術

の飛躍的な発展、途上国の急成長

などもあって、事実上は市場経済日

一本化されたと言えらると思います。

大中 1994年の世界貿易機関

(WTO)設立が端緒でしょうか。

鳥山 ところが、全加盟国による

通商交渉(ラウンド)は中断と再

開を繰り返し、事実上2013年のインドネシア・バリ会合まで機能不全に陥ってしまいました。

大中 途上国と先進諸国の思惑が

煩雑に絡み合っていました。

鳥山 そうした世界経済の動向

を、実際に通産省時代に、その一部

にささやかながら係り合った経験

をご紹介するとともに、若干の提

言を試みたものです。

大中 ご謙遜を。国別に事例がわ

かりやすく紹介されていて、さすが

実務をご経験された方ならではの

内容だと思えます。

鳥山 単に経済統合の理論や歴史

的發展だけでなく、それぞれの経

済統合にかかわった人々の感動、矜

持、こだわり、驚き、交渉を通じて

貫こうとした正義感などをできる

だけ臨場感を持ってお伝えでき

らと思つて執筆しました。

大中 拝読すると現場の緊迫感の

ある空気が伝わってきます。

鳥山 そう言っていたら嬉し

いです。

大中 通産省ではどのようなボス

トを経験されたのですか。

鳥山 貿易局長、通商政策局長、

通産産業審議官を歴任し、退官後

4年間日本貿易振興会(IIJET

RO 現・日本貿易振興機構)の

理事長を拝命しました。

大中 10年以上、世界の経済動向

の渦中におられたことになりました。

鳥山 すべてではありませんが、そ

うした世界の動向に直接・間接に

タッチし、その後も一般財団法人

国際経済交流財団会長(現・一般財

団法人国際経済交流財団理事長)

として、世界の動向を注視してい

りました。

大中 そうしたご経験があればご

そのご著書ということですよ。

鳥山 TPP(環太平洋経済連携

協定)もようやく形になってしま

したが、我が国においては財政赤字

と社会福祉問題が深

刻化を深め、いつ何時

キャピタルフライトや

年金不払いが起きるや

も知れない状況も起

りかねません。

大中 TPPもFTA

も日本にとつては、こ

れから避けて通ること

のでできない課題です。

鳥山 この社会福祉問題は、年金

と関連して格差拡大につながりか

ねませんし、基本的には人口減少の

ためにそれを補う以上の生産性が

見られないと日本の経済は確実に

沈むこととなります。

大中 アベノミクスも日銀の低金利

政策も具体的な成果は出ていま

せん。

鳥山 日本国内の問題だけでなく、

グローバルな視点から見れば、経済

統合がそれだけにとどまれば良い時

代は終わろうとしていると思いま

す。遠い将来の政治統合の時代の

到来にも備えなければならぬと

考えています。

大中 今日はありがとうございます。

した。

